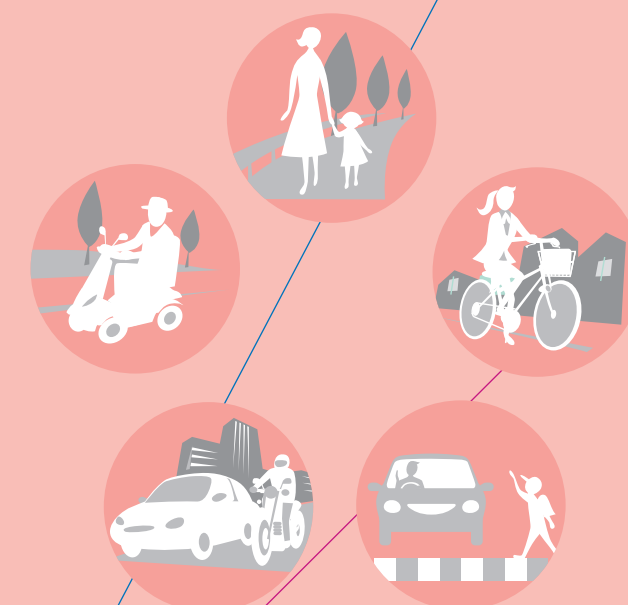


Hondaの 安全運転普及活動 報告書

2014



HONDA
The Power of Dreams

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして



本田技研工業株式会社 安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL:03-5412-1736 FAX:03-5412-1737



contents

Hondaの安全運転普及活動報告書 2014

特集:安全技術と安全教育	3
ごあいさつ	6
2014年 3ヶ年計画 初年度の振り返り	8
教育ソフトウェアの開発と導入	10
● 社会に求められるノウハウの創出	
普及活動の変革と進化	12
● 地域に根ざした普及活動	
● 交通安全の普及拡大に向けた場と機会の提供	
● 福祉関連安全運転教育プログラムの普及	
● 販売会社の安全活動	
● 関係諸団体との連携した安全活動	
● 交通教育センターの安全活動	
進展国 二輪事故低減の実現	22
● 海外での普及活動	
安全運転普及活動拠点	23
資料編	24
● 2014年安全運転普及活動動員数	
● 安全運転普及活動一覧	
● 情報公開・Honda企業レポートMAP	
● 安全運転普及活動 この1年の歩み	
● 安全運転教育機器/交通安全教育教材	

特集

安全技術と安全教育



技術が進化しても 安全を担うのは「人」

2014年10月にガンレク!フェスタの会場で行われた「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」。インストラクターがハンドルを握るフィットに参加者が同乗し、CTBAを体験した

「耐久消費財であるクルマは、ハードウェアとしての安全性を保証するだけでなく、使用者に対しても、正しく楽しい乗り方といったソフトウェアも加えて、初めて商品になる。すなわち、ソフトウェアも商品であるという考え方に、頭を切り替えるべきである。」

安全運転普及本部(以下、安運本部)の発足にあたり、後に初代安運本部長となる専務の西田通弘が当時社長の本田宗一郎と副社長の藤沢武夫に話した言葉です。

この後、1970年に安運本部が発足され、現在に至るまでの44年間、時代のニーズに合わせてながらハードウェア(技術)の提供とともにソフトウェアである安全教育をお客様に伝えてきました。

時代は移ろい、モビリティの安全技術は進化を遂げた一方、ドライバーは安全技術を誤解してしまう面もあります。技術を誤解しない運転のあり方を、私たち安運本部はあらためて伝えていこうと考えています。

開発に込められた想いと 技術を正しく理解する機会を創る

2014年10月、福岡県にある雁の巣レクリエーションセンターを会場に行われたガンレク!フェスタの一画で、安運本部は「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」を開催しました。

なかでも注目を集めたのがシティブレーキアクティブシステム(以下、CTBA)の体験会。インストラクターがハンドルを握り、

※CTBAについてはP4に詳細が記載されています。

参加者は助手席と後部座席に着座。10km/hでターゲットに向かって走行し、CTBAによる低速域衝突軽減ブレーキを体験いただきました。

それぞれのインストラクターが、参加者に必ず伝えていたメッセージがあります。

「クルマを運転するのはドライバーであり、このCTBAは万が一の時にドライバーを支援する技術です。そういう意味ではエアバッグと一緒にですね。自動運転ではないことをくれぐれも

※ガンレク!フェスタではCTBA技術の1つ、低速域衝突軽減ブレーキについて体験会を行いました。

CTBA体験会で聞かれた お客様の声

体験会では、最初にインストラクターがCTBAの技術説明をお客様にさせていただき、理解いただいた上で乗車体験をして頂きました。



◎CTBAの技術説明を受けて聞かれた声

- 「ブレーキに足をかけているとCTBAは作動しないなんて知らなかった。すべての状況で止まると思っていた」
Point!! 追突の恐れがあるにも関わらずブレーキ操作が行われなかった際に機能する技術です。
- 「色々な会社がテレビで宣伝しているが、どんな仕組みになっているか、この機会に分かってよかった」
Point!! レーダーで前方障害物を検知し追突の回避または低減を図る技術です。



◎乗車体験をして聞かれた声

- 「ブレーキが急激に効いて、止まるんですね。普段の運転時にかかるブレーキとは違うのが分かりました」
- 「あまりにも急激に止まるので、本当に止まるのか不安でしたし、怖かったです。思っていたイメージと違いました。こういうものが作動しない運転をしないといけないと思いました」

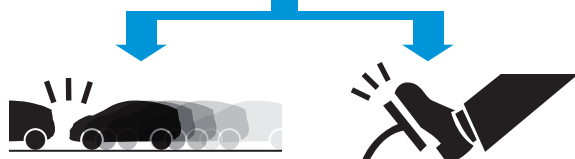


安全技術を理解する場と機会を社会に提供する

シティブレーキアクティブシステムとは？



レーダーで前方障害物を検知



低速域衝突軽減ブレーキ

30km/h以下で走行中に、追突の恐れがあるにも関わらずブレーキ操作が行われなかった場合、警報とほぼ同時に自動的にブレーキをかけ、追突の回避または被害軽減を図る。

誤発進抑制機能

停止または10km/h以下で走行中に、前方に障害物があるにも関わらずアクセルペダルを踏み込んだ場合、警報とほぼ同時にエンジン出力を抑え、急発進・急加速を防ぐ(MT車を除く)。

シティブレーキアクティブシステムは道路状況、天候状況によっては使用できない場合があります。システムの能力には限界があり、つねに周囲の状況に気を付け、安全運転をお願いします。



安全技術の普及は教育と両輪で実現する

先進の安全技術を広く世の中に普及させるためには、その技術がどんなもかを使う人に理解いただく場と機会を提供が欠かせない

忘れないで下さい。この機能を作動させないように、普段の運転では車間距離に余裕のある安全な運転をお願い致します」。

説明に耳を傾けながら、参加者の皆さんは深くならずと同時に、これまでCTBAを誤解していたと話の方が多くいらっしゃいました。

CTBAを実際に体験した皆さんの感想は、初体験の驚きと機能の誤解という、私たちが想定していたとおりのものでした。「CTBAは便利だけれど、使う機会が訪れないように、安全運転を心がけます」。

「機械は万能ではない。ハンドルを握る人間の自覚が大切だ」。

ガンレク!フェスタでお客様から伺ったこうした感想を、もっと多くの皆様と共有できるよう、取組みを加速していきます。

安全技術が装備されたことで「多少無理な運転をしても安全だ」と思い込んでしまうドライバーに、技術の内容を正しく理解する機会と場を提供したい——。

安運本部では、技術の進化とともに、お客様に正しくその機能をお伝えすることで、真の安全に寄与できると考えています。

お客様に商品を直接届ける販売会社でも、少しずつ取組

みが始まっています。静岡県内に16店舗を展開する四輪販売会社のHonda Cars 静岡西がエンジョイ!! モビリティワールドを開催。交通安全センターレインボー浜名湖を開催場所として、CTBAを体験できる機会を設けました。

Honda Cars 静岡西の宮地大介さんは「CTBAのような新たな安全デバイスの登場を期待していますし、それをきちんとお客様に伝えていくのが販売の現場の役目だと思っています」と語っています。

技術を開発する研究員も、安全に対する強い想いを言葉にしています。

「クルマの運転は楽しいもの。だからこそ安心・安全を確保しなければいけない」。

こう語るの、CTBAの開発責任者である榎英彰研究員です。

2014年に発表された「Honda SENSING」など、Hondaでは事故を未然に防ぐ安全技術(予防安全技術)の開発と普及拡大にかねてから取り組んできました。加えて重要なのは、ドライバーが正しく技術を理解すること。その第一歩として、私たちはガンレク!フェスタでのCTBA体験会を開催しました。



エンジョイ!! モビリティワールドのCTBA体験コーナーでは、参加者が自らハンドルを握ってシステムを体感した



今後、新しい安全技術が世に送り出される際には、そこに込められた想いと正しく理解いただく教育プログラムの開発を進めていきます。

安全技術は新時代へ —Honda SENSING—

Hondaは国産車で初めてABSを市販(1982年)したほか、クルマが自動でブレーキを作動させるCMBS(2003年)を世界で初めて実用化に成功しました。そして2014年に登場したのが「Honda SENSING(ホンダ センシング)」です。

- Honda SENSINGの主な機能
- 衝突軽減ブレーキシステム(CMBS)
- 路外逸脱抑制機能
- 世界初^{※1}歩行者事故低減ステアリング
- LKAS^{※2}(車線維持支援システム)
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール
- 標識認識機能
- 誤発進抑制機能
- 先行車発進お知らせ機能



※1 Honda調べ(2014年10月現在) ※2 LKAS(車線維持支援システム)は65km/h以上で走行している場合に作動します。



開発者の視点

本田技術研究所

技術は人をサポートする手段、主役はあくまでもドライバーです

クルマは人が操るものであって、クルマが人を操るものではない、という基本的な思想がHondaにはあります。自動停止は、自動運転につながります。ドライバーは自分がブレーキを踏まなくても止まると過信してしまうことが心配でした。

CTBAは日常的な運転の中で遭遇する頻度が高い、追突事故全体の約6割を占める30km/h未満の追突場面を想定して技術開発を進めました。

ドライバーが装置への過信を起こさないよう、自動ブレーキはギリギリまで働かせません。さらに、作動時には警報を出し、ドライバー自ら追突を回避するように支援します。

どんな人にも「自分ごと」として捉えてもらえる予防安全技術をやりたいと思っていました。そうした技術が世の中に認知されて広がることで、より安全な社会が築けると信じています。



榎英彰さん
本田技術研究所
研究員
CTBAチームリーダー



販売会社の視点

Honda Cars 静岡西

販売する私たちが「危険を安全に体験する」場を提供していきたい

CTBA体験は、スペース(駐車場)の広さや、安全を確保するための人員の手配の問題で、販売店では実施できません。そこで、交通安全センターレインボー浜名湖で行う当社のイベントの機会を活用して、多くのお客様にCTBAの効果を感じてもらおうと考えました。

お客様にHonda車の安全性能の高さを伝える上で、体験機会の提供はとても意義があります。安全技術の効果は公

道では試すことができません。交通安全センターであれば、危険を安全に体験することができます。

自分が乗っているクルマ、あるいはこれから購入しようとするクルマに付いている安全技術が、どんな場面どのように作動するか知っておけば、より安心して運転してもらえるはず。

こうした体験によって、お客様にHonda車をさらに好きになってもらえるとうれしいですね。



宮地大介さん
Honda Cars 静岡西
浜松中沢店
店長代理
チーフセーフティ
コーディネーター

ごあいさつ

本田技研工業株式会社 専務執行役員
安全運転普及本部本部長

峯川 尚



日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年は私どもの中期3ヶ年計画の初年度ということもあり、今まで継続してきた活動の強化と新たな取り組みに着手してきました。これも皆様のお力添えがあっての賜物と、この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

私どもは、「Safety for Everyone」をグローバル安全スローガンとして定め、「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」という3つの領域を進化、相互に連携させることによって、運転者のみならず、歩行者・自転車利用者・高齢者など交通社会に参加するすべての人の安全をめざしております。

日本における交通事故の情勢を見ますと、平成25年は交通事故発生から24時間以内に亡くなられた方は4,373人と13年連続で減少するとともに、負傷者数、交通事故発生件数も9年連続で減少しました。これは「世界一安全な道路交通」の実現をめざし、交通安全に関わる官・民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。しかしながら交通事故による死傷者数は78万5,867人と依然厳しい状況であり、官・民それぞれの取り組みに加え、さらに官民が一層連携した交通安全対策が必要だと考えています。

先日、私どもは「Honda SENSING (ホンダ センシング)」と総称する安全技術を発表いたしました。Honda SENSINGは、外界の検知情報を基に運転支援や事故回避をサポートする先進運転支援システムです。事故減少にこれらの技術が貢献するためには早く、広く普及することが必要ですが、同時にお客様にも正しくその技術や機能を理解していただくにはなりません。こうした安全技術の更なる進化と普及拡大、そしてそれらを正しく伝えられる環境作りを通して、安全に寄与できるように努めてまいります。

また、事故情報や急ブレーキ多発地点、生活者の皆様が持っている情報を見える化し、安全な街づくりに貢献するための基盤づくりとしてインターネット上に

「SAFETY MAP」を昨年一般公開しました。アクセス数や投稿数も増えてはいますが、更に活用を拡大していくため、今年度は危険な道路環境の改善に向けた提言活動をスタートいたしました。具体的には、「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜む地点に足を運び、実際の交通環境を確認した上で、Hondaの交通安全情報紙「SJ」に事故防止についての考察も含めて連載を始めました。今後の提言活動に、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

これらは単に「テクノロジー」領域や「コミュニケーション」領域だけの取り組みに止まらず、「ヒト」領域、つまりそれらを伝える人、理解して使う人がうまく機能することによって、より効果が発揮されるものです。

すべての人が心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会を実現していくためには、健康者のみならず、身体に障がいをお持ちの方の移動を支援するプログラムや機会の提供なども大変重要であると考えています。今年度は、身体に障がいをお持ちの方が運転を通して社会復帰できるような支援の拡大を進めています。

また、今後の高齢化社会の進展に伴い、デイケアセンター等の利用者も増加し、そのための高齢者の送迎の機会も増えてまいりますので、安心安全に移動していただく環境作りにも、積極的にチャレンジしてまいります。

今後も安全運転普及本部は、「ヒト」領域の観点で「人から人への手渡しの安全」と「危険を安全に体験する参加体験型の実践教育」という発足当時から基本の考え方に基づいて先進性・独自性のある教育プログラムや機器の開発により、効果の高い交通安全教育を提案できるよう、行政、地域の皆様などと連携しながら、「事故ゼロのモビリティ社会」の実現に向け、安全への取り組みを一層強化してまいります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト(ソフト)」に伝えること、安全に関わる「テクノロジー(ハード)」の開発、さらには安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしていきます。

その「ヒト(ソフト)」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。



安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。

人づくり



交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同して下さる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

場づくり



交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

ソフトウェアの開発



学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の1つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験していただける各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

安全運転普及本部の活動体制

できるだけ多くの人に
安全教育に参加してほしいから、
活動の場を広げています。

安全運転普及本部では、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフを配置し、皆様に交通安全教育の「場」と「機会」を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全普及活動に取り組んでいます。



継続している活動に加え、新たな取組みをスタート

安全運転普及本部 事務局長 吉田 宏樹

重点課題

今年度は、新たな3ヶ年計画のスタートの初年度にあたり、「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」を方針と定め、以下の3つの重点課題に取り組んでまいりました。

1. 教育ソフトウェアの開発と導入
2. 普及活動の変革と進化
3. 進展国 二輪事故低減の実現

1. 教育ソフトウェアの開発と導入

「車両安全技術からの実践教育の開発と導入」

Hondaは「事故ゼロのモビリティ社会の実現」を「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」の3つの柱で取り組んでおります。その中で、事故軽減のテクノロジーを広く普及させることは当然ながら重要ではありますが、一方でその機能を正しくお客様にお伝えすることも真の安全に向けて、とても重要なことと考えております。

初年度は、シティブレーキアクティブシステム(CTBA)を取り上げ、現在、安全運転教育プログラムとして開発を進めております。危険を安全に体験する参加体験型の実践教育という手法で、今後Hondaの交通教育センターをはじめ、様々な場で提供できるように展開してまいります。

「SAFETY MAPの利用拡大に向けて」

SAFETY MAPは地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップです。Hondaがインターナビから収集した急ブレーキ多発地点データと、交通事故情報および地域住民の皆様から投稿される危険スポット情報を地図上に掲載しています。

私どもは、このSAFETY MAPを危険箇所にご注意を払うということだけでなく、具体的な道路環境の改善につなげて

いく試みを今年度進めています。この取組みは私どもの機関紙「SJ」に掲載しておりますので、引き続きご注目ください。

「高齢者(歩行者・自転車)の教育ソフトウェア開発」

交通事故の死者数(24時間以内)は、昨年まで13年連続で減少していますが、一方で死者数に占める高齢者(65歳以上)の割合は年々増加しており、昨年は全体の52.7%に達しました。

私どもは、高齢者向けの教材を各地域の交通指導員の皆様に提供しておりますが、上記の状況から、実際に高齢者の皆様に交通安全を伝えている地域の交通指導員の皆様からのご意見や現在の交通環境、事故形態を踏まえ、新たな教材開発に取り組んでおります。

今年は各地域の交通指導員の皆様にご参加をいただき、新たな教材開発に向け、それぞれのテーマに沿って意見を出し合っていたく場を設けました。ご協力いただきました交通指導員の皆様に厚く御礼を申し上げますと共に、今後関係する皆様と連携した活動を継続的に進めていきたいと考えております。

2. 普及活動の変革と進化

「障がいをお持ちの方を対象にした安全運転の取組み」

私どもは昨年、高次脳機能障害の方が、クルマの運転を通して社会復帰されることへの支援を目的として、「自操安全運転プログラム」を開発いたしました。

一方現在は、高次脳機能障害の方が運転をスタートないし再開するにあたっての明確な評価基準が無く、現場で携わっている方々の大きな課題となっております。私どもは「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」や「自操安全運転プログラム」の提供だけでなく、運転復帰プロセス全体に対する支援を今年度スタートいたしました。

また、障がいをお持ちの方だけでなく、高齢化の進展に伴い、リハビリセンターや病院、デイケアサービスへの車による送迎も増えていることから、こうした移送時における安心安全の確保にも今後、積極的に取り組んでまいります。

「地域に密着した販売会社の交通安全活動への支援」

私どもの普及活動は、地域の交通指導員の皆様をはじめ、様々な関係団体の皆様のお力で成り立っていると云っても過言ではありません。そうした中で、今年度はHonda Cars(四輪販売会社)との連携を強化し、Honda Cars各社の交通安全活動による地域貢献の支援を進めております。これは今後、普及活動の場と機会の拡大を図っていくための重要な取組みと認識しております。

「交通安全の普及拡大に向けた場と機会の創出」

普及活動の場と機会の拡大に向けては、新たなチャレンジも進めております。それは他業種との連携による交通安全教室の開催です。今年度は初の試みとして、大規模レクリエーション施設やショッピングモールと連携し、実施しました。これらの結果を踏まえて来年度の取組みに反映してまいります。

3. 進展国 二輪事故低減の実現

今年度は昨年度に引き続き、インドへの支援を進めています。ご存知のようにインドは二輪車の事故が急増しており、その市場規模の大きさからも現在最も事故低減に取り組む必要がある国の一つです。昨年度は教材などの提供や中期計画の立案を支援し、今年度は交通安全の指導者育成の支援を進めております。

2015年に向けて

冒頭に申し上げましたように、今年度から新たな3ヶ年計画がスタートし、昨年から継続している活動に加え、新たな取組みもスタートできました。

3ヶ年計画は3つの重点課題を中心に、一貫した取組みを進めますが、新たなテーマにもチャレンジし、スピードと具体的な効果創出をめざして進めてまいります。

関係各位のご協力に感謝申し上げますと共に、来年もご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



※各重点課題ごとの活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しております。

先進性・独自性のある 教育プログラムの開発



Hondaでは、時代や社会などの環境ニーズに先駆けた新たなソフトウェアの開発を推進しています。そして、先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などの普及に努めています。

体験を通じて、クルマの安全技術を 正しく理解してもらう

「シティブレーキアクティブシステム(以下、CTBA・P3参照)」は約30km/h以下での前方車両との衝突の回避・軽減を、低速域衝突軽減ブレーキで支援。前方に障害物がある状況で、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、急な発進を抑制する誤発進抑制機能(MT車を除く)も備えています。ただし、運転の主体はドライバーですから、こうした安全技術をお客様に正しく理解していただくことが必要になります。そこで、CTBAの体験を通じて効果的な安全教育を行うためのプログラムを開発中です。来年以降、Hondaの交通安全センター(P23参照)での企業研修やスクールなどへの導入を皮切りに、普及拡大をめざしていく予定です。

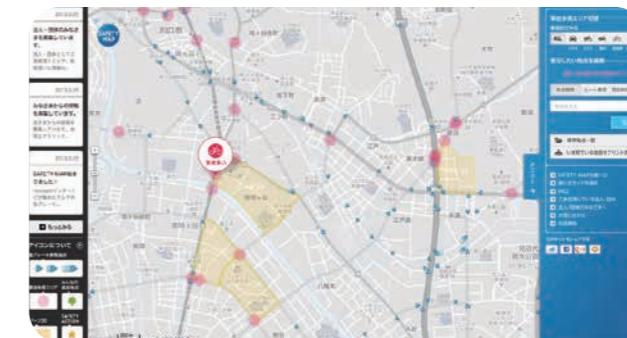


お客様を対象としたCTBA体験会の様子

「SAFETY MAP」の 新たな活用に向けた取組み

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用いただくことを目的に制作しました。MAP上にはHondaインターナビ(Hondaが開発した双方向通信型カーナビ)から収集した急ブレーキ情報、警察や(公財)交通事故総合分析センターから提供いただいた交通事故情報、地域にお住まいの方々の投稿の3種類の情報、そして警察庁から提供いただいたゾーン30*情報が掲載されています。これらの情報をその地域で生活するすべての方々があらかじめ知ることで未然に事故を防ぎ、安全な街づくりに貢献したいという思いを込め開発しました。埼玉県では「SAFETY MAP」を活用して危険箇所を洗い出し、交通安全対策(道路改善)に役立てるなど、自治体での活用も進んでいます。安全運転普及活動の取組みとして、このMAPを更に活用するため、「SAFETY MAP」から抽出された危険箇所を実際に観察し、道路環境の改善に向けた提言活動をスタートし、それを交通安全情報紙「SJ」で発信したり、JAF((一社)日本自動車連盟)埼玉支部とも連携し活用を推進いただく予定です。また、交通行政や識者の方々とも連携しながら、新たな利用拡大の研究・開発を進めていく予定です。

*歩行者や自転車優先される生活道路の安全対策として、区域内の道路を最高速度30km/hに制限した上で、ゾーンの入り口やゾーン内に標識および路面標示を整備して事故の防止に役立てるためのもの。

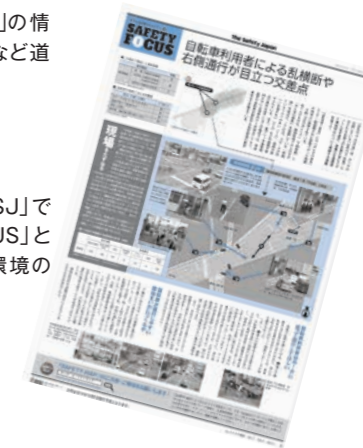


パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでご覧いただけます。<http://safetymap.jp/>



埼玉県では「SAFETY MAP」の情報をもとに路面表示の追加など道路改善を実施

Hondaの交通安全情報紙「SJ」では4月より「SAFETY FOCUS」というコーナーを設け、道路環境の改善に向けた提言を発信



交通指導員の方々の知識と経験を 新たな教材の開発に活かす

Hondaは、地域の指導員の方々の意見交換やそれぞれの活動報告を通じて指導力の向上に役立ててもらうために、情報交換会や合同研修会を定期的に開催しています。今年は新たな試みとして、全国5カ所で交通指導員116名の方々とHondaによる「教材研究会」を実施しました。現場で指導を担う方々の知識・経験と、Hondaのノウハウを組み合わせることにより、効果的で使いやすい教材を開発に結びつけることが目的で、この研究会はその第一歩です。研究会では、グループごとに子どもや高齢者への教育に活用できる教材をテーマに討議。現状の指導内容や手法の課題について共有し、そうした課題を解決するために有効と考えられる教材のアイデアを出し合っていました。参加した交通指導員の方々からは「少人数での討議だったので、他の地域の方とじっくり意見交換ができて有意義でした」「教材の開発に携われるということで参加しました。



福島県で開催された「北関東・東北地区指導員教材研究会」

私たちの声が少しでも反映されたら、うれしい」という声が聞かれました。各地の研究会で収集したアイデアや意見は、今後の交通安全教材の参考とし、新たな教育プログラムの開発に活かしていく予定です。

地域の指導者の 主体的な交通安全教育をサポート



Hondaは各地域において「手渡しの安全」の担い手となる指導者づくりに取り組んでいます。Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員^{*}、Honda関連会社の従業員、学校の先生方に対し、指導方法などの提供を通じて、指導者の交通安全教育をサポートしています。

*交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

地域に根ざした 普及活動の定着化を支援

Hondaでは、全国5カ所(下記参照)の各製作所内にある地区普及ブロックがHondaの交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに、研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。特に、交通安全教育プログラム「あやとりい」(P27参照)は、全国各地の交通指導員を中心に活用されています。山形県小国町の交通安全専門指導員の方は幼稚園・保育所での交通安全教室で「あやとりい ひよこ編」を使って指導。「ワークシートに人やクルマのイラストを貼ってもらうなど、子どもが参加できるようになっている点が効果的」と評価されています。



山形県小国町の交通安全専門指導員と保護者による白百合保育園での「あやとりい ひよこ編」

Honda関連企業内に インストラクターを養成

Hondaは2008年より関連企業内にも交通安全指導を担う指導者をHondaパートナーシップインストラクター(HPI)として養成し、教材の提供や定期的な情報交換会など、自社内および周辺地域における交通安全普及活動の支援を行っています。今年は16社17名を養成し、現在38社127名のHPIが積極的な活動にご尽力いただいています。



交通教育センターレインボー浜名湖で行われたHPI第5期生の養成研修

Hondaのノウハウを活用した交通安全教育を実施したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

栃木普及ブロック(栃木県真岡市) TEL:0285-84-7114
埼玉普及ブロック(埼玉県狭山市) TEL:04-2955-5323
浜松普及ブロック(静岡県浜松市) TEL:053-439-2316
鈴鹿普及ブロック(三重県鈴鹿市) TEL:059-370-1553
熊本普及ブロック(熊本県大津町) TEL:096-293-3206

思いやりの心を身につけ、 安全意識の向上につなげる教育

Hondaは高校生に対して、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナー、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要です。そこで、Hondaは独自に高校生交通安全教育プログラムを開発。2012年に熊本県内の高校で実施し、2013年から全国へ展開しています。これまでに23府県169校(10月末現在)に実施しました。

この高校生交通安全教育は、自転車や原付の運転時における交通ルールやマナー、危険行動について、感受性教育^{*}や実技を通じ、高校生自らが考えることで行動変容を促すことがねらいです。感受性教育では、交通ルールやマナーの重要性、事故を起こしてしまった場合の影響や責任を学ぶことで、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための教育を行っています。一方、実技では危険を安全に体験し、危険回避の方法を学ぶなど、自ら交通事故から身を守るという考え方を生徒に身につけてもらっています。この感受性教育と実技によって、「事故は絶対に起こさない。巻き込まれない」という意識の向上とともに、「絶対に人に迷惑をかける」という道徳心の向上をめざしています。

高校と生徒が主体となった 自主活動をめざす

Hondaの高校生交通安全教育は、「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という自立心の向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動に発展させていくことが目標です。2年目を迎える高校に対しては、学校が交通安全教育を継続して実施できる体制づくり、また地域によっては、地域の指導者と学校が継続できる体制づくりを進めています。

兵庫県立伊丹西高等学校では、1年生320名を対象に高校生交通安全教育を実施。座学をHondaのインストラクター、自転車の実技を同校の生徒指導部とクラス担任の先生方が担当しました。群馬県立下仁田高等学校では、1年生60名を対象に先生方による感受性教育が行われました。また、徳島県立三好高等学校ではHondaと連携して、同校の2年生12名を生徒インストラクターとして養成。今年は生徒インストラクターが中心となって、全校生徒150名に交通安全教育を行いました。今後も、Hondaはプログラムの内容を充実させ、学校の自主活動につながる継続的な支援をしていきます。



兵庫県立伊丹西高等学校の先生方による自転車教育



群馬県立下仁田高等学校の先生方による感受性教育

*感受性教育とは、交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討論の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。



徳島県立三好高等学校の生徒インストラクターによる自転車教育



交通安全の普及拡大に向けた場と機会の提供

さまざまな地域・場所で 交通安全教室を展開



Hondaは、一人でも多くの方の安全を守りたいという考えのもと、交通安全の普及拡大に取り組んでいます。活動の原点である「手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を通じて、子どもから大人までより多くの方々に安全意識を高めてもらうことを目的に様々な場所で交通安全教育を展開しています。

様々な体験を通じて、 家族で交通安全について考える

Hondaは雁の巣レクリエーションセンター(福岡県福岡市・以下、ガンレク)で開催されたガンレク!フェスタというイベントの中で、「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」を3回(5月、6月、10月)実施しました。「シートベルト重要性体験」「シティブレーキアクティブシステム体験(P4参照)」「自転車交通安全教室」「ぬりえ&交通安全クイズ」などのプログラムを用意して、イベントの来場者に興味のあるものを選んで参加していただきました。

また、来場者やガンレクのスタッフには、周辺でヒヤリとした経験のある場所を示すシールを白地図に貼ってもらい、これをもとにHondaがヒヤリマップを作成。このヒヤリマップをガンレクや地元警察署などに寄贈しました。この交通安全教室には1,000名以上の方々に参加いただきました。



Hondaは作成したヒヤリマップをガンレクや地元警察署などに寄贈

「ガンレク!フェスタ」での「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」。「シートベルト重要性体験」ではシートベルトを正しく着用しないと、その効果が発揮されないことを説明



Hondaの教育プログラムや教材、 教育機器を活用した交通安全教室

8月にはイオンモールむさし村山店(東京都武蔵村山市)で「家族で学ぶHondaの交通安全教室」を2日間にわたって開催しました。会場には「Honda交通安全かるた」「Honda自転車シミュレーター」などのプログラムが用意され、2日間で合計816名が参加。「Honda交通安全かるた」のコーナーでは、Hondaのスタッフがかるたの絵札を用いて集まった子どもたちに交通ルールの意味を解説。かるた取りでは、子どもに取った絵札を掲げてもらい、インストラクターがその絵札に合わせて事故に遭わないためのポイントを説明しました。「Honda自転車シミュレーター」のコーナーでは、シミュレーター体験を通じて、スタッフが子どもたちに基本的な交通ルールや安全な乗り方を伝えました。

また、9月には足立区大谷田南公園(東京都足立区)で交通安全教室を実施。Hondaのインストラクターが交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を使って幼児に道路を横断する際の「止まる」「観る」の重要性を伝え、それを親子で公園内を歩きながら実践しました。この他、子どもたちに自転車の実技指導も行いました。



イオンモールむさし村山店での「家族で学ぶHondaの交通安全教室」



足立区大谷田南公園での「家族で学ぶHondaの交通安全教室」

子どもと親が楽しく交通安全を学ぶ 親子交通安全教室

Hondaパートナーシップインストラクター(P12参照)は、自治体や関係諸団体と協力して、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」を開催しています。その目的は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解してもらうためです。今年は全国19カ所で開催され、合計1,696名の親子が参加しました。



「親子交通安全教室」でのダミー人形を使った飛び出し事故の再現

交通安全の動画やポスターを 広く一般から募集し、コンテストを実施

7月から9月にかけて、Hondaでは広く社会に警鐘を鳴らす交通安全の動画やポスターを一般の方々から募集しました。「こんな時が危ない!」を30秒の動画やポスターとして表現してもらい、コンテストを実施。入選作品は、Hondaのホームページで公開しています。



ポスターの部・大賞

動画の部・大賞

受賞者には安全運転普及本部より表彰状が贈られた

福祉関連安全運転教育プログラムの普及

身体が不自由な方の安全な 移動のために教育機会を提供



Hondaでは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念の実現に向け、お身体の不自由な方々の社会復帰に向けた安全な移動手段の確保のために教育機会の提供、ならびに運転復帰プロセスのサポートを通じ、一人でも多くの笑顔の拡大と交通事故の予防をめざしたいと考えています。

● 運転復帰をめざすリハビリテーション中の方への ● 教育機会の提供

現在、高次脳機能障害などにより加療中の方々が社会復帰をめざしてリハビリテーションに励んでおり、その中には運転復帰を希望される方もたくさんいます。こうしたリハビリ中の方の運転に対する評価や訓練をサポートするため、Hondaは「自操安全運転プログラム」を開発し、全国の交通教育センターで受講できるようにしました。このプログラムは、安全運転に必要な「走る」「曲がる」「止まる」といった基本行動を実車走行による体験を重ねることで、運転操作・感覚を把握するのが特徴です。

高次脳機能障害でリハビリ中の50代の男性の方は、NPOえんしゅう生活支援netの協力により交通教育センターレインボー浜名湖で「自操安全運転プログラム」を2014年1月より9回受講し、8月に運転復帰を果たしました。1回目から3回目までは交通教育センター内のコースでのトレーニング。加減速による速度調節、低速でブレーキやハンドルの操作、市街地を



交通教育センターレインボー浜名湖での「自操安全運転プログラム」

模したコースで、交差点の右左折などウィンカー操作を交えた法規走行に取り組み、4回目以降は、交通教育センター周辺の路上でのトレーニングを行いました。この方は「交通教育センター内では、基本的な運転操作や車庫入れなどを繰り返すことで車両感覚を取り戻すことができました。また、路上でのトレーニングでは身体の障がいによる運転特性をカバーするために必要なことを身につけられました。入院した時は周囲も自分も運転は無理だとあきらめていたので、このプログラムは私にとって救いの神です」と話しています。

● 医療機関と交通教育センターによる ● 運転復帰プロセス上の連携と普及

熊本セントラル病院では、リハビリ中の患者の方が運転を再開する際の評価のために2013年から交通教育センターレインボー熊本の「自操安全運転プログラム」を活用しています。同病院は今年、理学療法士、作業療法士、言語療法士の10名のスタッフで構成される運転支援チームを発足させ、患者の方に気軽に運転復帰の相談をしてもらい、その方の運転評価をスムーズに行うための体制を整えました。スタッフ全員で情報とノウハウを共有し、「自操安全運転プログラム」を使って、誰もが患者の方の運転評価をできるようにすることをめざしています。

同病院通所リハビリテーション事業所・訪問リハビリテーション事業所・作業療法士の内田智子さんは「運転支援チームが発足したことで、患者様からの相談も増えています。それでも症例はまだ少ないので、学会や勉強会などを通じて私たちの取り組みを紹介し、他の病院にも拡げていきたい」と話しています。

● 福祉に関わる運転を行う方々の ● 事故を予防し、削減する

交通教育センターでは「自操安全運転プログラム」のほか、「移送安全運転プログラム」も提供しています。これは今後の高齢化の進展もあり、介助・介護などの配慮を必要とする送迎サービスが増加する中、サービスを提供する方々が、送迎中の安全運転ノウハウや意識を身につけることができる教育プログラムです。7月には交通教育センターレインボー埼玉で、バスや電車の利用が困難な方を対象にクルマを使って外出の支援を行っているNPO法人のインストラクター等が実車に乗って、静的実技（運転姿勢、車いす使用時の死角と視野など）、ブレーキ、ハンドル操作、バック走行といったプログラムを体験。参加された方からは「危険を自ら体験できることは、座学よりもはるかにわかりやすい。知識を教え込むのではなく、意識を変えていく手法は他にはないと思う」という感想をいただきました。



交通教育センターレインボー浜名湖周辺の路上でのトレーニング



交通教育センターレインボー熊本での熊本セントラル病院の患者の方を対象にした「自操安全運転プログラム」



交通教育センターレインボー埼玉での「移送安全運転プログラム」視察・体験会

販売会社の安全活動

地域に密着した 手渡しで安全を伝える取り組み



Hondaの二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動を実践。安全運転に関するHondaの社内資格^{*}を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスをしています。そして、販売会社での活動が広がるように継続して支援してまいります。

販売会社における活動を より地域に密着したものとするために

今年は、より地域での普及活動の場と機会の拡大を図るため、Honda Cars(四輪販売会社)との連携強化に取り組みました。例えばHonda Cars 若狭には、「あやとりい ひよこ編」(P27参照)の指導ノウハウを伝えるための研修を社長以下、全スタッフを対象に実施しました。今後、Honda Cars 若狭では地域の子どもへの交通安全教育に「あやとりい ひよこ編」を独自にアレンジしたうえで活用していくことを予定しています。

また、春と秋の「全国交通安全運動」(主催:内閣府ほか)に併せて展開した「セーフティキャンペーン」では、全Honda Cars拠点に「無事故無違反継続活動用ポスター」を配付し、自ら交通安全を意識、実践していただくとともに「すべての席でのシートベルト着用の徹底」に焦点を当てた声かけ展開を実施しました。



Honda Cars 若狭の全スタッフを対象にした「あやとりい ひよこ編」の研修

春と秋の「セーフティキャンペーン」での販売会社のスタッフによる通学路等での安全旗振り誘導



^{*} Hondaの社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、電動カート「モンパル」の安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンパル安全運転指導員」などがある。

関係諸団体との連携した安全活動

交通事故低減に向けた 関係諸団体との取り組み

教習指導員の更なるレベルアップと 交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援:(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)は今年14回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国76校147名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。この大会には、全国16校17名の教習指導員の皆様にも審判員としてご協力いただきました。



第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

二輪車の 交通事故防止のために

(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務などのほか、(一社)日本二輪車普及安全協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導員レベルアップ研修会などにも協力しています。さらに今年は、(一社)日本自動車工業会がインターネット上に公開している安全運転啓発ビデオ「原付スクーター Safety Riding!」の制作にも協力しました(協力:(一社)日本二輪車普及安全協会、監修:(一財)日本交通安全教育普及協会)。これから原付免許を取得する人や原付利用者に対して正しい乗り方を訴求する内容となっています。また、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。



第47回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



(一社)日本自動車工業会の安全運転啓発ビデオ「原付スクーター Safety Riding!」の制作に協力



第45回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力

安全運転への気づきと理解を促す 参加体験型の実践教育



Hondaの交通教育センターは全国7カ所にあり(P23参照)、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に安全運転への気づきと理解を促すための参加体験型の実践教育や、社内外の指導者養成を行っています。今年は約9万8,000人(10月末現在)の方にご利用いただきました。

企業・団体などのニーズに合わせて 安全運転教育を提供

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供しています。一例として、交通教育センターレインボー埼玉では総合警備保障(株)(ALSOK)の監督職を対象にしたセーフティドライバー認定員養成専科研修を実施しています。同社は「安全運転の指導者として必要な心構えと知識、技術を身につけてもらうことができる」と評価しています。

また、企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。交通教育センターレインボー埼玉・和光では「2014トライフック セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催。「安全・安心な未来の交通社会を目指した普及活動」をテーマに、ポラス(株)や(株)ドミノ・ピザジャパンなどの活動事例が紹介されました。



交通教育センターレインボー埼玉での総合警備保障(株)の監督職を対象にしたセーフティドライバー認定員養成専科研修

「安全」と「楽しさ」の両立をめざす バイクとクルマのスクール

個人のお客様向けには、Honda モーターサイクリスト・スクール(二輪)やHonda ドライビング・スクール(四輪)を開催しています。今年は、鈴鹿サーキット交通教育センターで50歳以上のライダーを対象にした「宮城光スマートライディング」を実施しました。モータージャーナリストとしてテレビや雑誌で活躍している宮城光さんが、受講者一人ひとりの運転を観察し、バイクを安全に楽しんでもらうためのアドバイスをを行いました。1年前に二輪免許を取得したという受講者は「これまでは運転中、ごちなく感じていましたが、宮城さんの指導のおかげで、今後はスムーズに走れそうです」と感想を語っています。



鈴鹿サーキット交通教育センターで50歳以上のライダーを対象にした「宮城光スマートライディング」

鈴鹿サーキットでの白バイ隊員の 講習開始から50周年の節目

1964年、鈴鹿サーキットに鈴鹿安全運転講習所(現在の鈴鹿サーキット交通教育センター)が開設され、最初の受講者は中部管区の白バイ隊員の方々でした。これが現在に続く、交通教育センターの活動の原点です。今年は、それから50周年の節目にあたるということで、6月に鈴鹿サーキット交通教育センターで地元の三重県警をはじめ、大阪、愛知など2府11県の白バイ隊員による合同訓練会が開催されました。



鈴鹿サーキット交通教育センターでの2府11県の白バイ隊員による合同訓練会

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図ることにより、活動のレベルを高めることを目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。15回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外8カ国からインストラクター65名が選手として参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、各3種類の運転技術を確認する競技に加え、指導者としての幅広い知識や指導力を確認するロールプレイングによる「指導力審査」(海外選手は「筆記レポート」)も行い、運転技術と指導力の向上につなげています。



第15回セーフティジャパンインストラクター競技大会



進展国 二輪事故
低減の実現

海外での普及活動

各国の交通事情に即した 普及活動を支援



海外でのお客様や地域社会へ交通安全を伝える活動は、Hondaの現地法人・関係拠点が主体となって展開し、世界36カ国(日本を除く)で活動しています。特に、海外の進展国においては販売店でのお客様への納車時安全啓発や、交通教育センターでの実践教育、女性のお客様や子どもを対象とした安全教育を中心に、政府や関係団体と連携しながら各国の交通事情に即した活動が活発に展開されるよう支援を行っております。

インド国内の普及活動を担う チーフインストラクターを養成

インドでは急速な経済発展に伴い、二輪車の保有台数増加と事故急増が懸案で、お客様に安全運転を伝える販売店のインストラクターの養成が急務となっています。

Honda Motorcycle & Scooter Indiaでは、指導者となるチーフインストラクターを3名養成。この3名は交通教育センターレインボー埼玉で11日間にわたる養成研修を受講しました。(上記写真参照) 今後、このチーフインストラクターが中心となって、販売店のインストラクター養成を進めていく予定です。

各国の安全運転実務責任者が 情報共有できる場を提供

今年も、各国の安全運転実務責任者を集めた「Safety Driving Managers Meeting」を鈴鹿サーキットで開催。日本、タイ、ベトナム、インド、ブラジル、トルコ、マレーシアの7カ国から活動を行う現地法人や事業所の責任者15名が参加しました。今後の活動のレベルアップおよび活性化を図ることをめざし、タイやベト



タイのAP Hondaは専門学校 Kommission とディーラーが協力して314の専門学校へ安全運転教育を展開



ベトナムのHonda Vietnamは、ディーラーでのお客様への店頭活動や、地域社会への活動を行っている



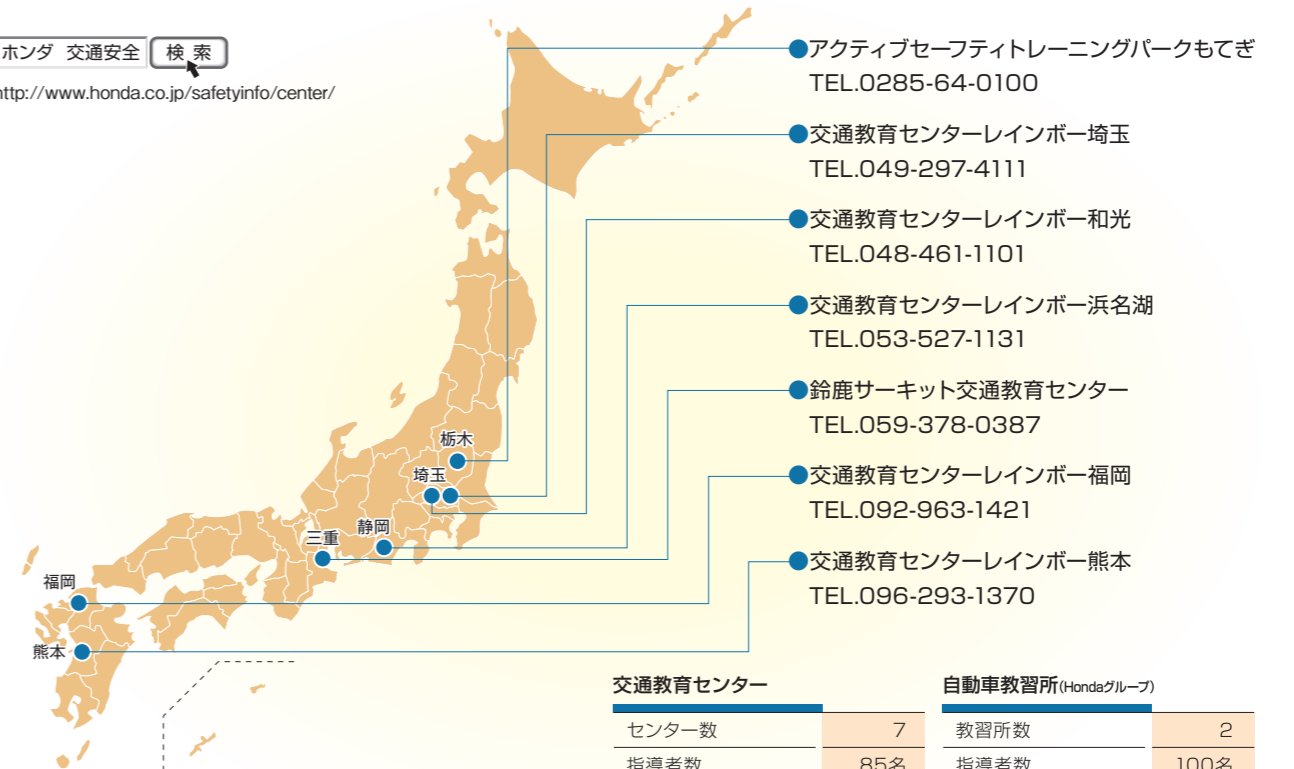
鈴鹿サーキットでの「Safety Driving Managers Meeting」

ナムでの好事例の共有や、販売店における安全運転普及活動のあり方などについてパネルディスカッションなどを行いました。

安全運転普及活動拠点

交通教育センター

ホンダ 交通安全 検索
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/center/>



交通教育センター		自動車教習所(Hondaグループ)	
センター数	7	教習所数	2
指導者数	85名	指導者数	100名
四輪研修車両	314台	四輪教習車両	135台
二輪研修車両	1,036台	二輪教習車両	100台

2014年10月末現在

交通教育センターが提供する安全運転教育プログラム

Hondaの交通教育センターでは、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育や社内外の指導者養成を行っています。個人のお客様向けには、クルマやバイクの魅力を実感いただきながら、楽しく安全運転の知識を身につけていただける様々なコースを用意しています。

HMS (Hondaモーターサイクリスト・スクール)

HMSは、車両の取り回しや運転姿勢、ライディングの基本である「走る・曲がる・止まる」を身につけていただく参加体験型のスクールです。専門のインストラクターが安全運転のポイントをアドバイスし、運転技術とともに安全意識を高めることができます。



親子でバイクを楽しむ会

バイクに乗る体験を親子で共有することで、親子の絆を深めていただくためのスクールです。お父さん、お母さんが先生になって、バイクの操作方法や楽しさ、交通ルールやマナーの大切さをお子様にご伝えます。ご家族のコミュニケーションづくりにも最適です。



HDS (Hondaドライビング・スクール)

HDSは、日頃の安全運転に役立つ知識や技術を身につけていただく参加体験型のスクールです。運転に自信がない方には基本から丁寧にアドバイス。もっと運転を楽しみたい方も、Hondaの先進設備で危険を安全に体験する運転トレーニングが行えます。



企業向け安全運転研修

各企業の実情に合わせた交通安全教育を提供しています。これまでに1,500社を超える企業様の交通安全対策をサポートしています。安全運転研修に参加された企業様は、その後の実績や調査から、事故の減少効果が確かめられています。



2014年安全運転普及活動動員数 (2014年1月~12月末見込み)

Hondaグループ活動

地域普及活動	指導者	参加者
あやとりいシリーズ	323	4,724
自転車シミュレーター教育	152	11,805
いきいき運転講座	49	648
シルバー楽集大学	106	207
交通安全ビデオ講座	185	688
高校生教育	-	72,720
その他のイベント	144	6,387
■交通教育センター		
企業向け四輪講習	6,144	30,552
企業向け二輪講習	1,992	4,610
個人向け四輪講習	-	2,405
個人向け二輪講習	-	18,978
その他 ※安全運転管理者講習 反映	0	34,177
Hondaグループ活動合計	9,095	187,901
総合計	196,996	

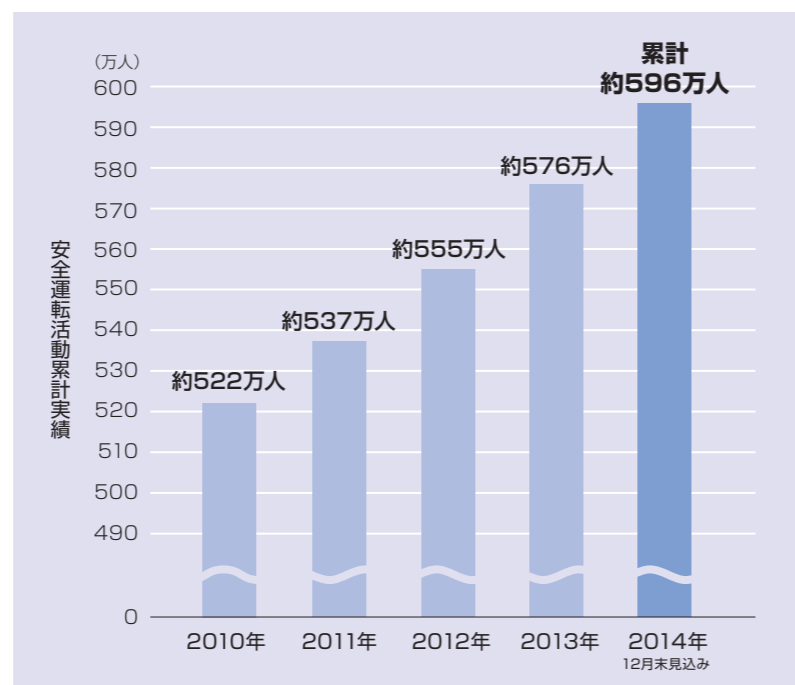
海外 (タイ、ブラジル、インドネシア、ベトナム、中国など主要活動国での実績)

地域普及活動	参加者
海外合計	5,910,000

地域連携活動

	指導者	参加者
地域普及活動	52	509,735
教習所	-	75,037
その他イベント	-	133,938
地域連携活動合計	52	718,710
総合計	718,762	

2014年安全運転普及活動動員数累計 (Hondaグループ活動、1970~2014年12月末見込み)



安全運転普及活動一覧

Hondaグループ活動

活動の場	活動内容	指導者	主な対象	一般・指導者	高齢者	
国内	四輪 レインボーディーラー※1	店頭安全アドバイス/安全ミニ講習会/ドライビングスクール/地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター/交通安全推進責任者	●	●	●
	二輪 セーフティサポートディーラー※2	店頭安全アドバイス/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー/スポーツライディングスクールインストラクター	●	●	●
	汎用	店頭安全アドバイス	モンパル安全運転インストラクター/モンパル安全運転指導員			●
	交通教育センター	運転者、指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会/各年代別講習	交通教育センターインストラクター	●	●	●
	安全運転普及及本部地区普及ブロック	地域の交通安全活動協力/指導者養成協力	安全運転インストラクター	●	●	●
	Honda事業所	従業員への交通安全指導/地域の安全運転指導	安全運転インストラクター			●
	Honda関連会社	地域の交通安全活動協力	Honda パートナーシップインストラクター	●	●	●
	自動車教習所との連携	地域の交通安全活動協力/二輪・四輪スクール	教習指導員	●	●	●
	業界活動	交通安全キャンペーン/交通安全教育プログラムの編纂/指導者養成協力		●	●	●
	海外	販売拠点 (四輪・二輪)	店頭安全アドバイス/ドライビングスクール/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター	●	●
交通教育センター		指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング/地域の交通安全活動協力/運転免許取得講習/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター	●	●	●

※1 レインボーディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした四輪販売拠点。
 ※2 セーフティサポートディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

情報公開 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

ホームページや情報紙を通じた情報発信

ホームページ「交通安全への取り組み」では、安全運転に役立つ情報を発信。安全運転やエコドライブのポイントをはじめ、お子様や高齢者の方々に交通事故にあわないようにしていただくためのアドバイスなどを紹介しています。

サイトはバラエティに富んだ内容となっており、イラストや動画で分かりやすく交通安全について学べる「危険予測トレーニング(KYT)」、親子で遊びながら学べる「交通安全ゲーム」のほか、「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」をはじめとした冊子や指導者向け教材などがダウンロードできるようになっています。学校や地域の交通安全教室でぜひご活用ください。

また、1971年より発行しているHondaの交通安全情報紙「SJ」を通じて、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。

動画による交通場面のケーススタディを通じて、「交通センス=危険予測能力」を身につける「危険予測トレーニング」

楽しみながら交通安全を身につけられる「Hondaの交通安全ゲーム」

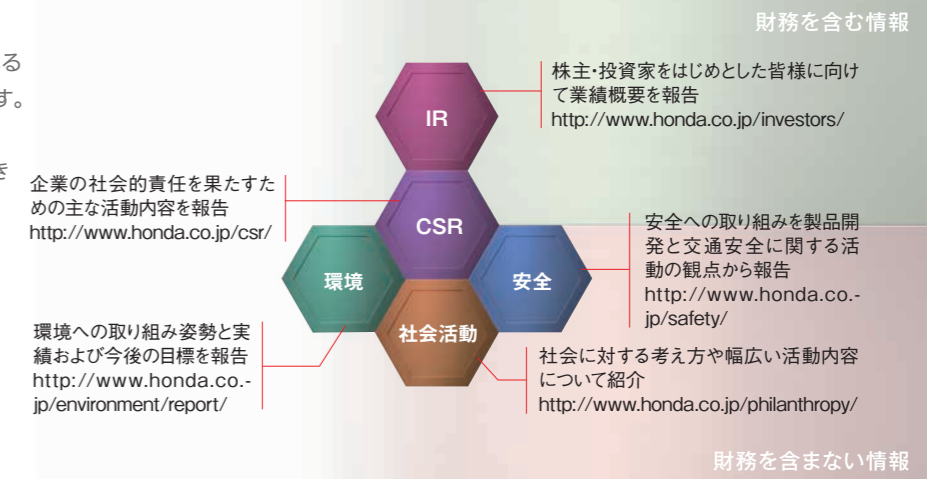
ホームページ「交通安全への取り組み」。初心運転者、子ども、高齢者、女性など、幅広い方々に対応したコンテンツを用意

交通安全情報紙「SJ」

Honda 企業レポート MAP

<http://www.honda.co.jp/csr/library/>

Hondaは、世界中のステークホルダーの皆様から「存在を期待される企業」となるために取り組んでいるさまざまな活動を5つの分野に分けて報告しています。皆様と積極的なコミュニケーションを図りながらHondaへのご理解と共感をより一層深めていただきご意見を頂戴することで企業活動のさらなる向上に努めていきます。



安全運転普及活動 この1年の歩み

2013

12月

- 愛媛県高等学校PTAリーダーズ研修会に協力(愛媛県、12/2)
- 九州地区交通安全普及活動報告会開催(熊本県、12/20)

2014

1月

- 「東海・近畿・中国・四国地区交通安全普及活動報告会」開催(三重県、1/21)
- 静岡県交通指導員連合会西部ブロックリーダー研修に協力(静岡県、1/23)
- 「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト活用に関する意見交換会」開催(東京都、1/24)

2月

- 「東海・北陸・四国地区交通安全普及活動報告会・情報交換会」開催(静岡県、2/6)
- 「南関東・甲信越地区交通安全普及活動報告会」開催(埼玉県、2/7)
- 「北関東・東北地区交通安全普及活動報告会」開催(栃木県、2/14)
- 「第38回全国・東京都学校安全教育研究大会」の公開授業に協力(東京都、2/21)

3月

- 「宮城光スマートライディング」開催(三重県、3/12)
- 徳島県立三好高等学校「交通安全生徒インストラクター研修会」に協力(徳島県、3/26)
- (株)ユタカ技研でHPI主催「親子交通安全教室」開催(静岡県、3/16)

4月

- 「オールHonda春のセーフティキャンペーン」実施(4/1~30)

5月

- 雁の巣レクリエーションセンターで「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」を開催(福岡県、5/6、6/7、10/18~19)

6月

- 「第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催(三重県、6/5~6)
- インド・バナシュワールおよびカタクの交通教育センター開設に協力(6/11)
- 徳島県立三好高等学校「交通安全生徒インストラクターによる自転車安全運転講習会」に協力(6/25、徳島県)
- 2府11県「白バイ合同訓練会」に協力(三重県、6/29~30)

7月

- 埼玉県教育委員会主催「学校安全教育指導者研修会」で講演(埼玉県、7/1~4)
- 九州武蔵精密(株)(熊本県)、(株)ケーヒン角田開発センター(宮城県)、テイ・エス テック(株)鈴鹿工場(三重県)、(株)ケーヒン狭山工場(埼玉県)、(株)ショーワ御殿場工場(静岡県)、武蔵精密工業(株)(愛知県)でHPI主催「親子交通安全教室」開催

8月

- 「第47回二輪車安全運転全国大会」に審判派遣協力(三重県、8/2~3)
- 「九州・山口地区指導員情報交換会・教材研究会」(熊本県、8/4~5)、「北関東・東北地区指導員教材研究会」(福島県、8/19~20)、「中国・四国地区交通安全指導員研修会」(岡山県、8/21~22)、「南関東・甲信越地区交通安全指導員教材研究会」(埼玉県、8/25)開催
- インド・ナシクの交通教育センター開設に協力(8/14)
- イオンモールむさし村山店で「家族で学ぶHondaの交通安全教室」開催(東京都、8/23~24)

9月

- 「東海地区交通安全指導員教材研究会」開催(静岡県、9/5)
- Honda Motorcycle & Scooter India「安全運転チームインストラクター研修会」開催(埼玉県、9/6~18)
- 「Honda秋のセーフティキャンペーン」実施(9/19~10/31)
- 三桜工業(株)古河事業所(茨城県)、日信工業(株)(長野県)、トピーファスナー工業(株)(長野県)、(株)エフ・シーシー(静岡県)でHPI主催「親子交通安全教室」開催
- 足立区大谷田南公園で「家族で学ぶHondaの交通安全教室」開催(東京都、9/23)
- 「海外Safety Driving Managers Meeting」開催(三重県、9/23~24)
- 「第15回セーフティジャパンインストラクター競技大会」開催(三重県、9/25~26)

10月

- Honda Cars 若狭(福井県)およびHonda Cars 長崎(長崎県)の販売店スタッフを対象に「あやとりい 指導者養成」実施(10/8、10/16)
- Hondaパートナーシップインストラクター第5期生「指導者養成」実施(10/8~9、10/22~23)
- 富山自動車学校、富山県Honda会と共催で「セーフティ・フェスティバルin富山」開催(富山県、10/12)
- 警察庁「第45回全国白バイ安全運転競技大会」に審判派遣協力(茨城県、10/11~12)
- 山田製作所(株)伊勢崎本社(群馬県)、テイ・エス テック(株)(埼玉県)でHPI主催「親子交通安全教室」開催

11月

- Honda Motorcycle & Scooter India「海外安全運転インストラクター研修会」「販売店セーフティアドバイザー研修会」開催に協力(インド、11/10~13、11/17~18)
- 「2014トラフィック セーフティフォーラムin埼玉」開催(埼玉県、11/28)
- インド・デリーに2カ所目の交通教育センター開設に協力(11/24)

この他にも、安全運転普及本部では様々な活動を実施しています。

安全運転教育機器／交通安全教育教材

教育効果を高めるため、各年代に応じた教育機器・教材を開発しています。危険を安全に体験できる二輪・四輪・自転車などの各シミュレーターや、各種交通安全教育教材の開発に力を入れています。

ホンダ 交通安全 検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

※各種教材機器・機材に関しては、ホームページで詳しくご紹介しています。

ホームページで体験・ダウンロード可能な材料等

幼児・小学生
 中学・高校・大学生
 運転者(一般指導者)
 高齢者



あやとりい ひよこ編
(幼児~小学校低学年対象)
イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学ぶことができる。



あやとりい子ども自転車トレーニングマニュアル
(幼児~小学校高学年対象)
実際に自転車に乗って安全意識を育てる体験型プログラム。安全を楽しく身につけることができる。



あやとりい
(小学3~4年生対象)
小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養う。



Honda交通安全かるた
子どもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを45種類紹介。かるた遊びを通して、「正しい交通行動」が学べる。



Honda自転車シミュレーター
自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図る。
※小学生~高齢者まですべての世代にご利用いただけます。



Hondaライディングトレーナー
手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行える。



交通状況を鋭く読む
~危険予測トレーニング~
運転者が路上で出会う危険を予測する能力を高めるためのトレーニング用教材。



事故事例から学ぶ、自転車の危険走行
実際の事故事例をもとに、自転車に乗る際に知っておくべき交通ルールを学ぶことができる。



Honda セーフティナビ
「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できる。リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト
四輪での運転復帰に向けて運転に対する評価・訓練をサポートするためのソフトで、運転環境の模擬的な再現により、運転操作における手足の複合的動作を楽しみながら行うことができる。



Honda動画KYT
集合教育において、実際の交通状況に近い動画を活用し、認知、判断を伴う危険予測能力を高めるトレーニングができる。



危険予測トレーニング(KYT)
動画で再現した交通場面のケーススタディを通じて、「交通センス=危険予測能力」を身につけるためのトレーニング。(DVDも販売中)



健康ドライブ読本
高齢ドライバーの運転に関わる身体機能の変化と、それを補う方法など、運転に役立つ情報を習得できる。



あやとりい 長寿編
高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促す。



交通安全ビデオ講習
ビデオに撮影された交通状況を観察して、その感想や意見を交換し、日頃の行動を振り返る。(監修:太田博雄・東北工業大学名誉教授)



シルバー楽集大学
歩行中・自転車乗中・自動車乗車中の各場面で、高齢者自身の安全を守るためのポイントをわかりやすく紹介した教材。



シニア向け交通安全啓発シート
体験型コンテンツやクイズ、間違い探しなど、参加者と一緒に話し合いながら学習をすすめられる指導者向け教材。

26

27